

令和2年度 第3回 湯沢町都市計画審議会 都市マスタープランの検討 議事録

1. 開催概要

○日 時：令和3年2月18日（木）10:30～11:20

○場 所：湯沢町役場 3階 議会第2会議室

○出席者：委 員）山口委員、林委員、宮田委員、岡田委員、角谷委員、白井委員、
高橋（政）委員、鈴木委員、松永委員(代理:櫻井)、中川委員、高橋（良）委員、
山本委員、大竹委員
事務局）地域整備部建設課 森下部長、丸山課長、関参事、青木主事

○議題

（1）都市マスタープラン原案について

2. 議事概要

事務局	（開会）
事務局	（委員改選） ・12月の委員改選から初めての開催となるため、自己紹介をお願いします。
事務局 各委員	（自己紹介）
事務局	（会長の選任） ・湯沢町審議会条例第4条第2項により、立候補される方はいらっしゃるか。
委員	（委員より立候補）
委員一同	（拍手により承認）
事務局	（以降、会長が議事を進行する）

(1) 都市マスタープラン原案について

資料2 第2回開催後の対応について

事務局 | 資料2を説明。
質疑なし

(2) 都市マスタープラン原案について

資料4 都市マスタープラン 概要版(原案)

事務局 | 資料4を説明。

委員 | ・人口が5万人になるという想定は何が根拠か。5万人という数字を見るとそれに基づいて計画が頭に入ってくる。次の計画は8,700人とあるが、20年経ったから関係ないという事でもいいのか。

会長 | ・5万人は定住人口でなくて都市活動人口である。都市活動人口とは例えば、観光客や町外から通勤して働く人を含んだ人口である。

委員 | ・人口は5,875人とあるが、これは放っておけばそうなるという事か。町の色々な施設があってメンテナンスが出てくるが人口が減少して支払えるのか。

会長 | ・これとは別に総合戦略会議というのがあり、その中では定住人口をいかに増やそうか、就労人口をいかに増やそうかという事を数年前から事業化してきた。それで現在は人口構成状態はというと、厚生労働省の国立社会人口問題研究所の推計値によると、必ずこれになるという数値ではないが、このままいくとこの数値になるという事である。努力の仕方によっては、今7,800人くらいの推計値であるが、8,000人で下げ止まっている。

委員 | ・話を聞いて少し納得した。この会議の10月30日の事が資料に出ているが、数字的な話は何もない。こうしようというのが何もない。この先20年間の湯沢町についてこれだけ資料をたくさん作ってくれたが、よく見ても何だか分からない。

委員 | ・概要版の2ページに”君と一緒に暮らすまち”という目指す将来像とが書かれている。先日、最上位計画の総合計画について「君という字は対等もしくは見下した表現である」ということから、”君と一緒に暮らすまち”の君という表現を変えてはどうか、という話が出た。検討していただきたい。

会長 | ・その話はまだ総合計画審議会の方に来ていないので、総合計画審議会にお話しただけだと思います。

委員 | ・総合計画が何らかの形で修正されれば、下位計画の都市マスタープランもそれに合わせて修正するという事か。

- 委員
- ・概要版に3つの目標がある。目標1、2はすんなり入って来たが、目標3の“新たな時代”というのが、分かったような分からないような感じがする。古い新しいじゃなく将来という意味だと思うが、こういうのはメッセージ性があるので、行政としてこういうのが新たな時代である、という考えはあるのか。原案でもそこまで触れていないが、例えば令和22年というイメージか。
- 委員
- ・将来の日本は人口が減って高齢化も進むというのが基本的な流れであるが、湯沢町もその流れの中で物事が作られていっている。どこまで具体化できるかは別問題として、全国の中で湯沢町だけは違う、もっと活性化する要素を見つけて町をもっと右肩上がりに持っていくように検討する場が町の中に無い気がする。
- 会長
- ・人口問題は行政の全てに関わる大問題である。総合戦略で人口問題の議論にずっと関わっている。基本的には人口を増やすという事はできないと考える。日本全体が減少、少子高齢化が進行し、東京ですら少子高齢化がどんどん進行して人口減少が進んでいく。その状態で湯沢町だけが人口が突出して増えるような施策は取れないのではないかと思う。ただし、下げ止まることはできる。人口減少について、ここには5,875人と書いてあるが、6,500人あるいは7,000人くらいの減少まで抑えることはできる。そのために何をするかということで総合戦略の中では、例えば商工会で若い人達の企業創業UターンIターンを増やすための、インキュベーションセンターを運営してきた。旧中央保育園のきら星さんでは就職相談やワークスペースを開設して、そこでリモートで仕事をしている若い人達もいる。こうした具体的な施策をやって来て、議論する場もある。計画が決まった段階でパブリックコメントも行っている。私が把握している所では、インキュベーションセンターを開設して以来、25人の新規創業がある。半数くらいがUターンIターン組である。東京や広島から来てホテルを始めたという人もいた。創業しても継続できるかどうかということが一番大きな問題になるので、継続するための決裁書の確認や金融のコンサルなどもやっている。
- 委員
- ・本庄早稲田に早稲田大学が来たことで、ものすごい数の学生が降りていく。発想を全く転換して、湯沢町に何か一つ大学や大企業が来たらガラッと変わる。佐野のアウトレットや、埼玉の越谷は大きなショッピングタウンができてその周りにマンションができた。そういった根本的な土地利用の政策だとか、観光にしても今までの延長線じゃない見方が必要ではないか。
- 会長
- ・行政の人達が何もしていない訳ではない。毎年のように総務部から主だった企業にDMを送り、企業進出の意向調査を行っている。現に、空き地になっている大規模工場跡地の利用促進のために企業誘致しましょうと、様々な事をやっている。やっても現実的に工場も企業もできないじゃないかと言われるが、何回も議論している。大規模な企業の誘致、あるいは学校の誘致はこの土地では非常に難しい。何が一番ネックになるかということ、人が集まらない事である。人が集まらないと

スキルの高い人材が雇用できないとアンケート調査に出ている。

- 大きな企業は、サテライトオフィス程度であれば地方に移すこともある。しかし大規模なオフィスを移すとなると周辺人口が大体 20 万人が目安なので、この周辺で可能性があるとするれば長岡市しかない。交通インフラに関しては、ここは問題ないと思う。しかし、その他のインフラに関しては企業誘致には向かないと思う。高校すらないという土地は、社会経済学的に言うと地域の衰退の象徴である。
- 本庄早稲田は潜在的に周辺人口が結構ある。湯沢町はそういうハンデも乗り越えていかなければならない。私は観光の時にいつも言っているが、軽井沢と湯沢町を比べても全然条件が違う。それで言うと大変失礼かもしれないが、本庄早稲田と湯沢町を比べても比較にならないと思う。
- 軽井沢を例にすると、まだ高齢化率が 25%位しかない。まだ若い人がいっぱい居て人口が 3 万人である。20 代 30 代の絶対数が湯沢町とは違う。

委員

- 色々時代が変わっていく中で、今の湯沢町が置かれている立地を生かした可能性の研究をする委員会的なものが何か一つあっても良いのではないかと感じている。

会長

- 極論であるが、個人的に観光立町をやめれば人口が増えると思う。一つ学校があって、来る人は勝手に来てくれ、その代わり宣伝活動は何もしない。要は先ほど小樽の話をしたが、若い人の人口流出の最大の要因は、産業の多様性が無い、職業を選べないという事である。小樽の失敗例で典型的なのが、観光業というのは地元の所得を増やさないので人が居なくなる。日本の観光業というのは、満遍なく地元の人達の所得を上げるものでは無い事がはっきりしている。

委員

- 住みよい、暮らしやすい、魅力のあるまちづくりにしていかなくてはならないので、雪国として雪処理は大事だと思う。機械除雪のためには、道路構造物が無く平らが良い訳であるが、建ぺい率を広く取れば雪の投げやすい所が出てくる。
- それと、これからの時代は脱炭素が大事である。
- 少なくとも住みやすさはこの計画の中に網羅されていると思う。これを基に個別に対応し、その時代に合った事柄をしていけば良い。今回の概要版を見ただけだが、なかなか良い出来じゃないかと思う。

委員

- 観光立町を辞めることで好転するというのは、私は納得した。なぜかというところ、
“観光、観光”と言っていると、それにみんなが頼ってしまい発想が出てこない。まちを企業として考えると、例えばソニーは少し前に世界一優秀な素晴らしい企業と言われていた。なぜ素晴らしい企業かというところ、やってる仕事内容が多岐に渡っていて、どこの仕事ダメになっても好転できるためである。全体的に世界的に一番強い企業である。
- 湯沢町も“観光、観光”言っていると、観光が何かやってくれると思ってしまう。例えば、温泉まんじゅうがおいしいと言っても、絶対にお土産にしたいようなお

菓子は都内にいっぱいある。昔の湯沢町は何もしなくてもお客が来ていたが、これからは温泉地、温泉まんじゅうだけで無く、新しいイメージづくりをしていくべきだと思う。

- 会長
- ・最後のページに総合計画にも盛り込んでもらった SDGs が書いてある。大手の会社を中心に再生可能なエネルギーの取り組みが盛んに言われているので、この辺を検討してもらい、SDGs 絡みで再生可能なエネルギーの関係で湯沢町に進出したいとか、湯沢町に協力をお願いしたいとか出てくるのではないかな。
- 委員
- ・議会としてもすごく関心があり、富山の水力発電や群馬へ視察に行ってきた。何とか実用化できないかと、委員会の中で協議させていただいている。
- 会長
- ・今年 9 月から私の会社で水力発電所の建設工事を始めようとしている。水力発電所は許認可を取るのに 10 年かかる。関係する省庁が多く、あちこちに確認や届出すべき書類がある。
 - ・国交省も SDGs に一生懸命取り組んでいると思うが、何か一つコメントお願いしたい。
- 委員
- ・最近の色々な行政方面の計画で持続可能なもの、エネルギーは付いて回ってくる。今後の新しい方向性としてある程度、力を入れていくべきだと思う。
 - ・許認可で色々大変だという話は、もろもろの方面で動きやすいように改善する事が行政として大事だと思う。
- 事務局
- ・“新たな時代” という表現は、この計画が概ね 20 年後に達成したと時という意味である。表現を検討する。
- 委員
- ・どういう時代なのかと思ったままである。変えなくても良い。
- 事務局
- ・概要版の 6 ページの湯沢地域の写真の下、“不便も楽しみつつ” という表現を修正する。
- 委員
- ・若干気になっていたが本音なので良いのではないかな。
- 事務局
- ・地元の本音ではあるが、三国地域の表記も修正したので、表現を統一する。
 - ・概要版の神立地域の役場の写真について、湯沢学園にしてほしいという意見があるので変更する。
- 委員
- ・“不便も楽しみつつ” と書いてある上の写真が西口になっているが、写真とキャプションを文言に合わせた方が良いと思う。

会長	・この写真の意図するところは、“多様な都市機能の集積による”という事ではないか。
事務局	・湯沢地域を象徴する、それを示すような写真ということで載せていた。写真を検討する。
会長	・他にご質問がなければ本日の議題は終了したので以降の進行を事務局にお返しする。
事務局	(副会長の選任) ・初めに会長は選任したが、副会長を選任していなかったため選任したい。湯沢町審議会条例第4条第2項により、立候補される方はいらっしゃるか。
委員	(委員より立候補)
委員一同	(拍手により承認)
事務局	・委員を副会長として選任する。 (閉会)